

令和2年度 第1回 浜松市美術館協議会

日 時 令和2年8月7日（金）

午後2時から午後4時まで

場 所 浜松市美術館 2階 講座室

次 第

1 開 会

2 浜松市美術館協議会会長あいさつ

3 浜松市市民部文化振興担当部長あいさつ

4 自己紹介（新任委員紹介）

5 議 題

（1）令和元年度浜松市美術館事業報告について（教育普及活動含む）

（2）令和元年度浜松市秋野不矩美術館事業報告について

（3）内部評価について

6 閉 会

令和2年度
第1回

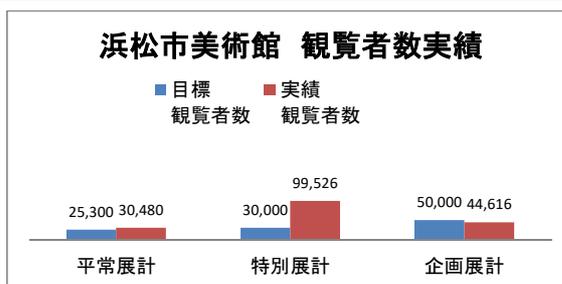
浜松市美術館協議会
議 題

浜松市美術館協議会委員名簿

No.	選出区分	氏 名	経 歴 等
1	学識経験者	内山 正己	静岡県版画協会理事 浜松市美術協会理事
2	学識経験者	片桐 弥生	静岡文化芸術大学文化政策学部教授
3	学識経験者	齊藤 昌子	こども造形アトリエ どんぐりの森主宰
4	学識経験者	瀧口 裕章	元木下恵介記念館館長
5	社会教育関係者	大城 眞弓	元浜北文化協会書道部部長
6	社会教育関係者	村松 厚	鴨江アートセンター館長
7	学校教育関係者	市川 浩教	浜松市立中部中学校校長
8	学校教育関係者	沖村 清美	浜松市立伊目幼稚園園長

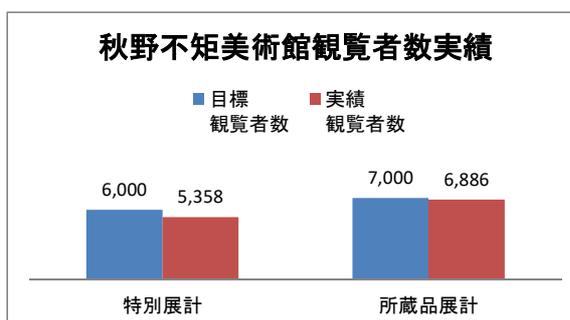
令和元年度 浜松市美術館 展覧会開催状況

		会 期	開催 日数	目標 観覧者数	実績 観覧者数	1日 平均	備考
平常展	大城貞夫版画展&浜松市美術館 名品セレクション展	H31. 4. 1~4. 3	2	300	267	133.5	全体会期 H31. 3. 5~4. 3
	こどもの市展等	R1. 1. 4~1. 16 R2. 2. 25~3. 26	39	20,000	24,075	617.3	こどもの市展 新収蔵品展
	第67回市展	R1. 2. 4~2. 16	12	5,000	6,138	511.5	
平常展計			53	25,300	30,480		
特別展	木梨憲武展	R1. 7. 13~ 9. 8	54	30,000	99,526	1,843.1	
特別展計			54	30,000	99,526		
企画展	上村松園展	H31. 4. 27~R1. 6. 9	39	25,000	24,998	641.0	
	スーパーリアルワールド展	R1. 9. 28~12. 15	67	25,000	19,618	292.8	
企画展計			106	50,000	44,616		
合計			213	105,300	174,622		



令和元年度 秋野不矩美術館 展覧会開催状況

展覧会の名称		会 期	開催 日数	目標 観覧者数	実績 観覧者数	1日 平均	備考
特別展	堂本印象展 ～飽くなき創造への挑戦～	H31. 4. 27~ 6. 9	38	6,000	5,358	141.0	
特別展計			38	6,000	5,358		
所蔵品展	秋野不矩 制作の現場からⅠ ～世界の風景を訪ねて～	H31. 4. 2~ 4. 21	18		1,220	67.8	
	秋野不矩 制作の現場からⅡ ～女神たちに捧ぐ筆～	R1. 6. 22~ 8. 24	38	7,000	2,453	64.6	
	秋野不矩 制作の現場からⅢ ～インドの日常に見つけた美～	R1. 8. 6~ 9. 16	38		3,213	84.6	
所蔵品展計			94	7,000	6,886		
合計			132	13,000	12,244		



Ⅲ 教育普及事業

1 団体鑑賞（学校や施設等の団体の利用の受け入れ）

展覧会名	利用団体数	利用人数
上村松園展	28団体	923人
木梨憲武展	42団体	1607人
スーパーリアルワールド展	19団体	749人
第10回浜松市とスويس・ベルン市の絵画交流展	6団体	135人
子どもの市展	23団体	804人
新収蔵品展	0団体	0人
合計	118団体	4218人

2 ギャラリートーク（学芸員・作家等による作品解説）

展覧会名	日程	担当者	参加人数
上村松園展	4/27	上村淳之氏（日本画家）	97人
	5/4	当館学芸員	56人
	6/2	当館学芸員	62人
木梨憲武展	7/27	当館学芸員	106人
	8/4	当館学芸員	118人
	8/27	当館学芸員	98人
スーパーリアルワールド展	9/28	石黒賢一郎氏（作家）・斎藤雅緒氏（作家）	65人
	10/6	当館学芸員	51人
	10/20	石黒賢一郎氏（作家）	62人
	11/2	石黒賢一郎氏（作家）	52人
	11/3	石黒賢一郎氏（作家）・須田悦弘氏（作家）	75人
	12/1	当館学芸員	37人
	12/3	石黒賢一郎氏（作家）	42人
	12/15	石黒賢一郎氏・立島恵氏（佐藤美術館学芸員）	64人
新収蔵品展	3/15	当館学芸員 ※コロナウイルス対策のため中止	0人
合計			947人

3 講演会（作家・専門家等による講演）

展覧会名	日程	講師	参加人数
上村松園展	5/12	吉田俊英氏（四日市博物館長）	50人
スーパーリアルワールド展	10/13	天野誠氏（株式会社フレール館 元アンパンマン室長）	50人
	11/17	石黒賢一郎氏（作家）	50人
合計			150人

4 ワークショップ（展覧会の内容に応じた表現・鑑賞活動）

展覧会名	日程	内容	参加人数
上村松園展	5/25	ガラス絵を描いてみよう	15人
木梨憲武展	7/20	オリジナル・フェアリーズを作ろう	30人
	8/17	オリジナル・フェアリーズを作ろう	30人
スーパーリアルワールド展	10/27	ミニミニ探検隊 リアルワールドの世界を楽しもう	38人
	11/2	やってみよう シルバーポイント	18人
	11/10	オリジナルペットボトルを作ろう	254人
合計			385人

5 出前講座（収蔵品や展示作品をもとにした表現・鑑賞活動）

日程	実施施設	内容	参加人数
6/26	浜松市立佐鳴台小学校	ガラス絵を描いてみよう	40人
	聖隷厚生園ナルド	ガラス絵を描いてみよう	15人
	浜松市立可美中学校	ガラス絵を描いてみよう	20人
10/4・7	浜松市立芳川小学校	オリジナル・フェアリーズを作ろう	220人
		合計	295人

6 職場体験（中学生の職場体験・大学生の博物館実習）

内容	受け入れ学校数	参加人数
職場体験	3校（中学校）	8人
博物館実習	2校（大学）	2人
	合計	10人

7 公募展（市民の作品展示の機会を提供）

展覧会名	日程	来館者数
第10回浜松市とスイス・ベルン市の絵画交流展	11/12～11/24	3848人
第52回浜松市子どもの市展	1 / 4～1 / 16	22572人
第67回浜松市市展	2 / 4～2 / 16	6138人
	合計	32558人



上村淳之氏ギャラリートーク



吉田俊英氏講演会



木梨憲武展ワークショップ「オリジナル・フェアリーズを作ろう」



石黒賢一郎氏ギャラリートーク



オリジナルペットボトルを作ろう

令和元年度 浜松市美術館内部評価

年間の基本コンセプト	総 評
「近現代の日本美術」※リニューアルオープン周年記念 本年度は、近代から現在に至る、日本美術を紹介する。春には、美人画の第一人者として名高い作家の企画展を実施し、施設改修アピールのため重要文化財を展示する。また、夏から秋にかけては、現代作家を取り上げ、新しい視点のアートを積極的に発信する。	年間を通じて、10万人弱の大変多くのお客様に来館いただき、各展覧会を通して、日本の近現代絵画をお楽しみいただいた。上村松園展とスーパーリアリズム展については本館のみ開催した自前の企画展であったが、全国各地から来館いただき、盛況であった。上村松園展では、本画「母子」、大下図、素描等100点余りを展示し、全国的にも近年にない大掛かりな上村松園展を開催することができた。秋に開催したスーパーリアリズム展では、浜松出身の写実表現作家を取り上げた。斎藤氏はデザイン分野で1970年代から活躍してきた作家で、石黒氏は現在特に注目を浴びている超絶技巧の油彩画作家である。どちらの作家の作品にも、来館者の驚きの声が上がっていた。今年度は収蔵品展を含め、自主企画の展覧会を3本実施した。今後も地域にゆかりのある自主企画の展覧会の開催を強化していきたい。夏季に開催した木梨憲武展は、タレントではなく、画家としての「木梨憲武」の魅力を発信することができた。さらに、集客動員数は過去に例をみない、99,500名超となった。しかし、集客人数が本館の集客キャパをはるかに超えており、入館整理、展示室への入場整理、物販コーナーの支払い客の整理等々に支障が生じ、多くの課題が残った。

①展覧会について

・優れた美術を鑑賞できる展覧会を開催し、来館者の裾野を広げます。

	展覧会名	開催日数(日) 目標(人)	平均(人/日) 実績(人)	達成率 評価	成果	改善点
平常展の開催について	浜松市美術館名品セレクション展 2019.4.1～2019.4.3 ※2019.3.5～2019.4.3	2 300	133 267	89% 1	浜松市美術館では、平成4年1月に第1弾として収蔵品の図録「浜松市美術館の120選」を発刊した。前回の発刊より27年、さらに篤志家から作品をご寄贈いただき当館が収蔵する作品は、約7,000点となった。第2弾となる今回は、前回掲載されることのなかった作品、新収蔵作品の中から選りすぐりの作品106点を選出し図録を作成し、展示を行った。大城貞夫版画展と同時開催とし、同時期に活躍した創作版画家の作品や地元ゆかりの浮世絵なども展示した。さらに工芸では、颯々織や刺繍不動明王二童子像(重要)を展示したことで、多くのお客様に喜んでいただいた。	今回から造作や展示も業者に委託する方法をとり、作業を行ったため、少ない職員で作業を進めることができた。しかし、当館のコレクションをより多くの方々に知っていただけるよう桜開花の時期や春休みの時期に展覧会を設定すると業者さんとの契約が年度で途切れるため契約の手続きに慌ただしさと手間がかかってしまう。 優れた美術作品の収集や保存を続けることは、館としても大切なことである。今後も収蔵作品を活用し、趣向を凝らした展覧会を開催していきたい。
	大城貞夫版画展 2019.4.1～2019.4.3 ※2019.3.5～2019.4.3				浜松市出身の創作版画家・大城貞夫(1908～1981)の作品を展示するとともに、戦前戦後の浜松市の街並みや、文化人との交流を紹介した。大城氏は、現在の静岡県立浜松工業高校や静岡県立浜松北高等学校の教師でもあったため、芸術家だけでなく、政財界で活躍するかつての教え子たちも多く来館し、浜松の偉大な文化人の存在を改めて確認した。	運営について、最も重要な調査研究以外の仕事が多かったため、もう少し調査研究に時間を割きたかった。
	浜松市芸術祭第67回市展 2020.2.4～2020.2.16	12 5,000	511 6,138	123% 5	・搬出入方法を変更して2年目の市展であった。受付業務は昨年度同様、搬入者に待たせることなく円滑に実施できた。 ・受付・PC入力係は臨時職員と業務を分担して効率よくできた。 ・昨年、協議会委員からご提案のあった「ご案内」という形で前回入賞者に応募要項を送付したため、総応募点数は昨年よりも20点近く増えた。 ・部門によって多少ばらつきはあったものの、入賞率を例年よりも少しアップさせることで、創作意欲の向上に寄与できた。	・昨年同様、書道部門の応募が少なかつたため、書道関係者に意見を聞くなどして幅広く応募してもらえるよう工夫したい。(部門を半切・それ以外に分けるなど) ・今まで各部門で大賞を受賞した人に対し、個展を開催する権利を与えていたが、中には個展を開催するほど点数がない人もいたため、大賞を取った作品をある一定期間来館者の目に触れるよう館内に掲示しておくなど見直したい。
	新収蔵品展 2020.2.25～2020.3.26	27 5,000	49 1,323	26% 1	佐々木信平、鈴木三朝、長岡宏、斎藤雅緒、石黒賢一郎、遠藤美香、栗山茂など浜松ゆかりの作家や、名刀、浮世絵、仏教彫刻といった近年新たに収蔵された作品と共に、修復を行った《マドンナ》(オディロン・ルドン作)を展示した。 新収蔵作品をお披露目することで、市民に浜松ゆかりの作家を周知することができた。そして、修復作業を終えた《マドンナ》オディロン・ルドンを、修復の過程を分かり易く解説したパネルと同時に展示することで、美術品を後世に受け継ぐという美術館の役割と共に、修復作業自体について市民に知ってもらえる機会となった。 また、新型コロナウイルス感染症が広がり始め集客数が落ち込む中でも、SNS投稿キャンペーンを活用することで、一定の集客数を得ることができた。	新収蔵品については、作家を紹介するに留まってしまい、個々の作品の解説まで手が届かなかった。今後は作品研究を重視していきたい。

特別展の開催について	木梨憲武展 2019.7.13～2019.9.8	54 30,000	1,843 99,526	332% 5	タレント木梨憲武氏の個展である。テレビのバラエティー番組で絵画の制作をして以来、25年以上に渡って描き続けた絵画、オブジェ等約150点を展示した。 木梨氏の来館もあり、開幕当日は約700人の来館者が列を成した。また、一日平均2000人の来館者があり、最終的には目標の3倍以上に当たる約100,000人の来館者数を記録した。 テレビCMを数多く流したことが功を奏し、広く情報の周知ができたことが要因の一つと考えられる。また、木梨氏が事前にインタビューや撮影に協力してくれたおかげで、たくさんの動画や写真をSNS上に拡散することができた。SNS投稿キャンペーンでは、プレゼントとして木梨氏のサイン入りポスターを用意した。約4000人の来館者に自身のアカウントで木梨展情報を投稿してもらうことができた。	開幕当初、前売券購入者と当日券購入者の列の扱い、物販コーナーの列の誘導など、浜松市美術館開館依頼経験のない人数をさばくことに難儀した。展覧会運営を進める中で、徐々に改善し(前売購入者を先に案内、仮設当日券売場設置と開館時間前での販売、受付を2か所設置等)最終日には5000人の来館者を列をなすことなく流すことができた。今回のノウハウを、今後動員が見込まれる展覧会の際に生かしていきたい。
企画展の開催について	上村松園展 2019.4.27～2019.6.9	39 25,000	641 24,998	100% 4	当年は、浜松市美術館リニューアル1周年記念および上村松園の没後70年の節目にあたり、優品約90点を下絵や素描も交えながら展覧した。また、松園が作画において参考にした古典作品や着物・櫛・簪などの工芸品も紹介し、松園の美人画をはぐくんだ背景もたどった。さらに松園の志を受け継いだ「松園賞」受賞作家の足跡をたどることで、その偉業を再確認することができた。 〔松園賞 受賞作家＝秋野不矩、堀文子、朝倉摂、小倉遊亀、広田多津〕	浜松市美術館で松園展を開催する意義として、秋野不矩をはじめとする、松園賞受賞作家を紹介したが、作品の展示にとどまり、深く掘り下げることが出来なかった。 今後は秋野不矩をはじめとする、女性作家の研究も深める必要があると考える。
	スーパーリアルワールド展 2019.9.28～2019.12.15	67 25,000	293 19,618	78% 1	画壇と産業界、それぞれの分野で活躍する浜松ゆかりの作家・石黒賢一郎氏と斎藤雅緒氏の写実表現を紹介した。 現在、国内外で活躍する浜松ゆかりの作家を市民に周知すると共に、油彩(石黒氏)とエアブラシ(斎藤氏)という異なるアプローチでリアル表現を追求した作品を同時に紹介することで、写実表現の奥深さと可能性を提示することができた。 また、TVCMの頻度を増やしたり、SNS投稿キャンペーンを活用することで、口コミが徐々に広がり、集客数を伸ばすことができた。	本展の準備に着手するのが遅くなり、図録校了等が遅れてしまった。計画性を持って取り組むべきだったと痛感している。

②教育普及活動について

・市民の感性を育むため、美術に触れる機会と他者とのつながりを提供します。

	内容	実績(人)	成果	改善点
団体鑑賞について	学校、地域の諸施設等からの団体での来館・鑑賞を受け付ける。	4,218	・上村松園展は春の遠足シーズンと重なり、小学校からの団体鑑賞の申し込みが多かった。 ・木梨憲武展は、夏休み中の児童会や高齢者施設等、幅広い年齢層の団体の申し込みがあった。 ・子どもの市展は近隣の小学校からの申し込みが多かった。	館藏品展への団体申し込みが少ない。浜松市美術館が所蔵する地域に誇る作品であるため、SNS等で幅広く周知し、市民の館藏品への興味・関心を高めていきたい。
ギャラリートークについて	展覧会担当学芸員や作家等が、展示内容について解説を行う。	947	・学芸員のギャラリートークは、展覧会を企画した学芸員ならではの視点やちょっとした裏話が好評だった。 ・木梨憲武展のギャラリートークでは、ただ知識等を伝えるだけでなく、来館者に問いかけ作品について考えたり対話したりすることができ、好評だった。 ・上村松園展とスーパーリアル展では、作家や関係者によるギャラリートークが行われ、作家や関係者の視点ならではの作品解説が好評だった。	ギャラリートークは、その日来館した人しか話を聞けないというデメリットがある。ギャラリートークを録画して館内モニターやSNSで発信したり、実況中継的にライブ配信する方法を検討したい。
講演会について	展覧会の内容に応じた有識者(作家、大学教員、研究者等)の講演を行う。	150	・上村松園展では四日市市博物館の吉田館長、スーパーリアル展では石黒賢一郎(作家)氏による講演が行われ、いずれも会場は満席となった。スライドを用いた分かりやすい解説で、展示を鑑賞するための知識が補われ、好評だった。	講演会は、その日来館した人しか話を聞けないというデメリットがある。講演会を録画して館内モニターやSNSで発信したり、実況中継的にライブ配信する方法を検討したい。
ワークショップについて	展覧会の内容に応じた表現活動・鑑賞活動を行う。	385	・上村松園展では、浜松市美術館恒例のガラス絵のワークショップを行い、上村松園を題材にガラス絵を作成した参加者もいた。 ・木梨憲武展では、木梨氏の代表作「フェアリーズ」(段ボールで制作するワークショップ)を行った。木梨氏に事前にアドバイスの動画を撮影させてもらい、会場で流したり、後日SNSで発信したりした。2日間の開催でいずれも満席であった。 ・スーパーリアル展では、浜松学院大学の学生主体のワークショップを行った。	ガラス絵のワークショップは恒例ではあるものの、参加者は少なくリピーターがほとんどである。宣伝方法を工夫したり、展示内容に応じた別の切り口のワークショップを考案したい。
出前講座について	学校や諸施設へ出向き、美術館展示作品・所蔵作品に関連した表現・鑑賞活動を行う。	295	・小中学校、高齢者施設からの要望でガラス絵講座を実施した。はじめてガラス絵の技法に触れどの参加者も楽しく活動できた。	人員の・時間的な問題で、多くの講座開設が不可能で、いくつかの団体に対し、講座開設を断る形となった。しかし、展覧会期間中の開催はなかなか難しく、今後も年に3講座程度の実施としたい。

職場体験について	浜松市内の中学生の職場体験を受け入れ、美術館業務を体験してもらう。	10	市内3校の中学生の職場体験を受け入れた。どの生徒も来館者目線では見えない美術館の仕事を知り、驚いた様子だった。	どうしても資料の整理などの雑務に費やす時間が多くなってしまい、単調な作業内容になりがちである。広報活動や教育普及活動等、生徒たちが前面に表舞台に立てる場面も設定していきたい。
公募展について	・浜松市とスイス・ベルン市の絵画交流展 ・第52回子どもの市展	32,558	スイス展、子どもの市展は、展示された子供たちが多く来館し、誇らしげな子供たちの表情が見られた。また、子供たちの作品を展示することは、子供たちに美術館の存在を知らせ、長い目で見たときに、来館者の増加を期待することができる。	子どもの市展は、主催である浜松市立の幼小中の展示である。同じ浜松地区にある県立の特別支援学校等とも連携し、同期間で作品の展示ができないか検討する。(子どもの市展への合流は難しい。)

③その他施設等について

・様々な人に開かれた美術館とし、施設・設備の充実と健全運営を目指します。

来場者アンケート～ 満足度について	
スタッフ対応	アンケートは上村松園展、木梨憲武展、スーパーリアルワールド展で実施。スタッフ対応は「満足」、「やや満足」と回答したものを計上。 上村松園展・・・74%、木梨憲武展・・・84%、スーパーリアルワールド展・・・70%
施設満足度(施設に望むもの)	上村松園展・・・カフェコーナー44%、常設展示29%、収蔵品検索12% スーパーリアルワールド展・・・カフェコーナー52%、常設展示28%、収蔵品検索20%
施設の状況について	
第3展示室扉開閉修繕工事、地域遺産センター内収蔵庫ドアホン改修工事、1階ロビー照明及びコンセント改修工事	
展覧会等の情報発信について	
・昨年同様、展覧会毎にポスター掲示やチラシを配布したほか、展覧会共催者によるテレビCM等を活用した情報発信を行った。とくに木梨憲武展については、テレビCMによる広報の効果が大きく、観覧者増につながった。	
・ポスターは広告媒体の重要なものとなることから、デザインを決める際には担当だけでなく全職員で見やすさやデザインの観点から決定した。	
・SNSを活用した情報拡散 若年層を取り込むにはツイッターやFacebookが有効と考える。企画会社と交渉し、写真撮影の機会をなるべく設けるようにしている。特に木梨憲武展では基本的に写真撮影OKにしたことのほか、SNSにアップすることによって抽選で作者のサイン入りグッズが貰えるという試みで、必然的に情報拡散され10万人近い集客となった。館内にはツイッターやFacebook、インスタグラムのQRコードを掲示して容易にアクセスしやすくしている。	
・ツイッターを利用した情報発信 ツイッターでは若年層に興味をもってもらうように面白おかしく情報発信するように心がけている。近年のフォロワー数の伸びも著しい。(参考:4/30現在のフォロワー数6,311)	

評価尺度	達成率(○○年度実績/○○年度目標×100)
5	105%以上
4	100%以上105%未満
3	95%以上100%未満
2	90%以上95%未満
1	90%未満

令和元年度 浜松市秋野不矩美術館内部評価

年間の基本コンセプト	総 評
1.特別展では、秋野不矩を取り巻く日本画家の作品を紹介し、現代日本画壇における秋野芸術の理解を深めます。 2.所蔵品展では、本館所蔵作品を中心に展示を行い、秋野不矩の業績を広く紹介します。 3.改修工事を滞りなく実施し、施設の保全に努めます。	本年度は、9月より改修工事のため休館となり、通常年度よりも開館日数が少なく、特別展を1回、所蔵品展を3回開催した。特別展では秋野不矩と同門の日本画家、堂本印象画伯の作品を借用し、市民の方々に日本画の可能性について提示することができ、所蔵品展では計画的に所蔵作品を展示し、秋野画伯の画業を広く紹介することができた。 改修工事では長年の懸案であった施設の老朽化に対応することができ、空調設備機器の全体交換、屋根・外壁の点検改修を行い、今後も美術館の運営が適正に実施できるよう施設の維持管理に努めることができた。

①展覧会について

・優れた美術を鑑賞できる展覧会を開催し、来館者の裾野を広げます。

	展覧会名	開催日数(日) 目標(人)	平均(人/日) 実績(人)	達成率 評価	成果	改善点
所蔵品展の開催について	秋野不矩 制作の現場からⅠ ～世界の風景を訪ねて～ 2019.4.2～2019.4.21	94 7,000	73 6,886	98% 3	本年度は「制作の現場から」をテーマに、秋野不矩が実際に現地で取材をして制作した当館所蔵の作品を選定し、展示を行った。第1回展はインドを中心にした風景画を、第2回展はインド女性や現地の人々の崇敬を集める女神の姿をモチーフにした作品を、第3回展は民家や寺院など人々の生活に根差した場所を取材した作品を展示し、秋野芸術の素晴らしさを伝えることができた。 改修工事のため、通年よりも短い期間しか開催することができなかったが、特に行楽期である夏には多くの方々に当館を訪れていただくことができ、概ね目標とする来館者数を達成することができた。 また第1回展では、当館所蔵の作品を巡回展として貸し出した、和歌山県にある田辺市美術館より借用した、田辺市ゆかりの稗田一穂画伯を始めとする、新しい日本画の創造に挑んだ現代日本画たちの作品を特別に出品し、秋野画伯を始めとした日本画家たちの努力と成果を広く紹介することができた。	当館が開館して20年を超えた現在、開館当初に比べ、収蔵作品も少しは増加したが、それほど数は増えておらず展覧会のマンネリ化は課題と考える。第1回展で実施した特別出品のように、所蔵品展の中でも他館からの作品を紹介する等、新しい試みを取り入れていきたい。 また、秋野不矩についての調査研究を今後も継続的に行い、その成果を展覧会の場で発表する等の工夫も行っていきたい。
	秋野不矩 制作の現場からⅡ ～女神たちに捧ぐ筆～ 2019. 6. 22～2019. 8. 4					
	秋野不矩 制作の現場からⅢ ～インドの日常に見つけた美～ 2019. 8. 6～2019. 9. 16					
特別展の開催について	堂本印象展 ～飽くなき創造への挑戦～ 2019.4.27～2019.6.9	38 6,000	141 5,358	89% 1	今回は西山翠嶂画塾の青甲社において、ともに研鑽を重ねた堂本印象画伯の作品42点を、京都市にある堂本印象美術館、京都国立近代美術館より借用し、堂本画伯の初期から晩年に至るまでの作品を展示し、旺盛な創作活動で20世紀の芸術界を常にリードし続けた画伯の、飽くなき創造への挑戦の過程を存分に紹介することができた。 ポスターやチラシ等のメインビジュアルとした作品「乳の願い」は、横幅3mを超える大作であり、当館の広い空間を確保した展示室での展示は、その迫力を十分に味わっていただくことができ好評であった。	著名な作家の秀逸な作品を展示する展覧会であったが、目標とする入館者数を達成することができなかった。新聞社やテレビ局等のメディアをさらに活用する等、広報活動のさらなる充実を図っていきたい。 また、当館は建築も魅力の一つであるため、まだ当館を訪れたことのない県外者へのアピールも積極的に行っていきたい。

②教育普及活動について

・市民の感性を育むため、美術に触れる機会と他者とのつながりを提供します。

	内容	目標(人)	実績(人)	達成率	成果	改善点
ワークショップについて	夏休み特別企画 日本画の画材にふれてみよう	20	6	30%	秋野画伯の地元で、子どもたちに日本画の基本的な制作過程や画材の取り扱い方等を紹介した。実際にその画材を使って作品を制作することで、子どもたちが日頃触れることがない、日本画材が持つ魅力を十分体験する機会を提供することができ有意義だった。	人数が少なかったため、より子どもたちへの支援の充実を図ることができたが、もう少し多くの子どもたちに参加してもらえよう、継続的な呼びかけや、魅力あるテーマの考察等を進めていきたい。
その他	みらーと(静岡県障害者文化芸術活動支援センター)支援人材育成研修会への参加				みらーと(静岡県障害者文化芸術活動支援センター)西武抛点担当者より、展示会運営と展示についての講義・ワークショップへの参加要請を受け、職員が参加した。遠州信用金庫中島支店の多目的ホールで開催され、障がいもつ方やそのご家族に、美術館の役割や効果的な展示についての講義を実施し、その後参加者が持ち寄った作品をその場で実際に展示し、効果的な展示についてのアドバイスを行った。	

③その他施設等について

・様々な人に開かれた美術館とし、施設・設備の充実と健全運営を目指します。

来場者アンケート～ 満足度について	
スタッフ対応	アンケートはすべての展覧会で実施。スタッフ対応は「満足」、「やや満足」と回答したものを計上。 堂本印象展・・・79%、所蔵品展・・・80%
施設満足度(施設に望むもの)	カフェ・・・68%、常設展示・・・15%、図書コーナー・・・14%
施設の状況について	
建物修繕	主遮断装置及び過電圧・不足電圧継電器更新工事他11件 経年劣化等による施設の不備を修繕
空調設備改修	空調設備を全面改修し新しい機器に交換
屋根・外壁点検改修	屋根瓦部分の鉄平石と外壁部分の点検を行い、不具合がある個所については交換を実施
展覧会等の情報発信について	
・特別展においてはポスターやチラシを制作し、他美術館や市内施設、学校等に配布した。また展覧会共催者による新聞告知やテレビCM等で展覧会情報を発信した。	
・HP上で年間スケジュールと直近2か月分の開館日情報の詳細を掲載した。	